

松江市立女子高等学校の魅力化について
(提 言)

平成 29 (2017) 年 3 月

松江市立女子高等学校魅力化検討プロジェクト

目 次

1. 提言にあたって	…	P 1
2. 女子高魅力化の基本的な考え方（現状と課題/見直しの方向性）	…	P 2
3. 女子高魅力化案	…	P 4
(1) 大学、専修学校等 高等教育機関との連携	…	P 4
① 高・大連携（大学、短大、高専）	…	P 4
ア. 高校生が大学教育に触れる機会の提供		
イ. 入学前の履修認定		
ウ. 入学推薦枠		
② 高・専連携（専修学校）	…	P 5
ア. 高校生が専修学校に触れる機会の提供		
イ. 入学推薦枠		
(2) 学科再編	…	P 6
ア. 総合学科の導入		
イ. グローバルな人材育成		
学科再編のイメージ	…	P 8
(3) 特色ある学校運営	…	P 9
ア. 経営委員会の設置		
イ. 人事制度の見直し		
ウ. 定員の弾力化		
エ. 施設の整備		
(4) 情報発信	…	P 9
(5) 将来的な検討課題	…	P 10
① 国際バカロレア教育校の研究		
② 中高一貫教育校(併設型)の研究	…	P 11
4. 魅力化実現に向けての方策とロードマップ	…	P 12
※ 資料		
A 委員名簿	…	P 14
B 設置要綱	…	P 15
C 検討経過	…	P 16
D 各種データ	…	P 17
E 魅力化アンケート結果(抜粋)	…	P 20
F 会議資料一覧	…	P 24

1. 提言にあたって

全国的に少子化傾向が続き、松江圏域の中学校卒業見込み者数も、平成 17 年度の 2,117 人から 10 年間で 126 人減少、今後さらに減少する見通しとなっている。

松江市立女子高等学校（以下、「市立女子高」）においても、平成 13 年度頃から定員割れが生じ始め、平成 17 年度は入学定員 160 人に対して入学者が 125 人という状況となった。平成 20 年度からは 30 人学級 4 クラス編成の 120 人定員に変更し、少人数指導を特色の一つとして運営を行ってきたが、今後の人口推移を見ても引き続き厳しい状況が予想される。

島根県においては、「県立高校再編成基本計画」が平成 30 年度をもって終了することに伴い、平成 31 年度から 10 年間の県立高校の方向性を示す「県立高校の在り方検討会議（平成 28 年 4 月～）」が実施され、統廃合や学区制の在り方なども含めて議論が行われているところである。

市立女子高では、「国際文化観光都市・松江」が設置する公立女子高として国際交流に貢献できる人材を育成するため、平成 7 年度に「国際文化科」を設置、平成 17 年度には「国際文化観光科」に改編し、その特色や魅力を高めてきた。その結果として、観光プランコンテスト 7 大会連続入賞やユネスコスクール認定などの成果を上げてきた。

また、30 人学級によるきめ細やかな学習指導、エイズ啓発活動に代表されるボランティア精神やホスピタリティー精神の育成、市内公立高校唯一の修学旅行なども魅力となっており、そうした教育環境の中で、大学や専修学校関係者からは「女子校ならではの伸び伸びとしたリーダーシップが培われた人材」などの評価も受けている。

一方、男女共同参画社会の推進や少子化により、多くの男女別学校が共学化する流れの中、「公立女子高」としてその必要性や存在意義を示すことが求められている。

改めて市立女子高の在り方を検証するとともに、さらなる魅力化について検討することを目的として、平成 28 年 7 月、「松江市立女子高等学校魅力化検討プロジェクト」が設置され、これまで 6 回の会議を開催して協議を重ねてきた。

本プロジェクトでは、近隣に男女共学の普通高校がある中での共学化は必要性に乏しく、また、今後さらに重要となる女性リーダー育成のためには男女別学が引き続き効果的であるとして、女子高としての存続を前提とした検討となった。

検討にあたっては、市内中学 3 年生の女子生徒及び保護者、市立女子高生徒、市内専修学校、市内企業を対象に「松江市立女子高等学校の魅力化に関するアンケート」（以下「魅力化アンケート」）を実施し、それぞれの意見が反映されるよう努めた。今般、その結果を提言として取りまとめたのでここに報告する。

市立女子高を取り巻く環境が依然として厳しい中、本提言が新たな魅力創出の一助となり、歴史ある市立女子高が一層発展されることを望むものである。

松江市立女子高等学校魅力化検討プロジェクト

委員長 小林 祥泰

2. 女子高魅力化の基本的な考え方（現状と課題/見直しの方向性）

- 国においては、「我が国最大の潜在力である女性の力」を最大限発揮できるよう、平成 28 年 4 月に「女性活躍推進法」が施行されるとともに、同年 6 月、「ニッポン一億総活躍プラン」が策定された。これにより、女性はその個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するための具体的な行動計画が義務付けられるなど、女性の活躍促進が国の成長戦略の中核に位置付けられた。
- 松江市においても、平成 27 年 10 月に策定した『人口ビジョン・第一次総合戦略「まち・ひと・しごと創生」』において 10 の重点プロジェクトの一つ『女性の活躍促進「一歩前へ」プロジェクト』の中で「次世代女性リーダーの人材育成」を主要事業の一つとして位置づけるなど、女性リーダーの発掘・育成を積極的に推進することとしている。
- 女性の自立や社会的地位向上に大きな役割を果たしてきた「女子教育」(男女別学校)は、昭和 22 年の教育基本法公布以降、他校との統合や男女共学化などにより全国的に減少していき、1990 年代における男女共同参画社会の推進や少子化の進行とともに、さらに大きく減少していった。現在、松江市立女子高は中国・四国地方唯一の公立女子高であり、全国的に見ても市立・町立女子高は 7 校を数えるのみとなっている。

このような社会情勢の中で女子教育を継続している大学などでは、それぞれ女子教育の必要性を訴えている。最も強調されるのは、「性差による役割分担がないため、決断力や行動力など自立した女性リーダーの資質が養われる」というものであり、国内の女性管理職の占める割合が 10%に留まる現状にあっては、「女子教育」の役割がより増しているとの声もある。

男女別学校は男女の特性や成長に応じた指導ができ、全国に残る男子校、女子校それぞれに一定の役割が残っているものと考ええる。また今回、市立女子高生徒を対象とした「魅力化アンケート」の回答からも、同性だけの伸び伸びした教育環境を望む声も聞かれている。
- 県内唯一の女子高校である松江市立女子高は、男女共同参画社会をリードしていく人材の育成を目指し、地域に根差した教育を展開してきた。「国際文化科」、「国際文化観光科」の設置や、30 人学級など、60 余年にわたる歴史において様々な教育への取組を進めてきた。

- しかしながら、市立女子高に対する高等教育機関、企業、市民の認識は十分なものとは言えず、同校の特色ある取り組みも、情報発信不足から広い周知には至っていない。

現在、県立高校においても、平成30年度末をもって終了する現行の「県立高等学校再編成基本計画」について、社会の変化や生徒のニーズの多様化に対応した高等教育の在り方及び生徒数の減少に対応した高校の在り方の視点で見直しが進められている。

生徒数の減少という共通の課題の中で、将来的にも市立女子高としての存立のコンセプトをより明確にするとともに、卒業後の進路を見据えた教育指導が求められている。

生徒一人ひとりの将来の夢や目標の実現に向けて、中学校からの一貫した教育環境や、大学や専修学校など高等教育機関との連携の在り方を検討していく必要がある。

- 地域に目を向けると、近年、急増する外国人観光客が安心して滞在するためのインバウンド対策が喫緊の課題になっており、本市においても、「国際文化観光都市・松江」の名に恥じないよう、おもてなしの心やコミュニケーション能力の備わった受け入れ態勢の整備が一層求められている。

「縁結び」をキーワードにした出雲地域の観光ブランドや、女性向け観光プランを展開し、昨年、環境大臣賞を受賞した玉造温泉など、今後も、多くの女性観光客が本市を訪れることが予想され、観光プランの開発や受け入れには引き続き女性の視点が重要である。

- 少子・高齢化や地域コミュニティのつながりの希薄化などを背景にして、医療・看護・介護・福祉ニーズが増大及び多様化、高度化しており、全国有数の高齢県である本県においても、質的・量的に対応できる人材の確保が大きな課題になっている。

また、人口あたりの医師集積数や日本創生会議が発表した「医療・介護体制がある地域」において、松江圏域は国内トップレベルであり、医療・福祉系に対する需要はより高いものがある。

- 将来のさらなる人口減少時代、超高齢化社会においては、地域社会における女性リーダーの果たす役割が、地域の活性化に一層重要になると考えられる。

- 市立女子高では、「①地域における女性リーダーの育成」、「②グローバルな感性を持った女性の育成」、「③地域に必要な専門的知識・技能を有する女性の育成」を目指し、具体的な魅力化を進めていかなければならない。

3. 女子高魅力化案

- 市立女子高が「目指す生徒像」として取り組んできた『故郷を愛し自国の文化理解の上でグローバルな視点に立てる生徒』や『男女共同参画社会に生きるための基礎力を備え、自らの未来に向け努力できる生徒』に求められる人間力は、変化する社会の波に対応し、自らの未来を切り拓いていくため、今後も極めて重要である。
- また、市立女子高は、国際文化観光科の卒業後の進路など出口が明確でないとの意見も聞かれ、社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力等を育てるための明確なコンセプトが必要である。
- 本プロジェクトでは、【グローバルな視点を兼ね備えた総合人間力の形成】を大きなテーマに据え、以下のとおり魅力化案としてまとめた。
なお、実現までの期間を、短期（概ね3年以内）・中長期（概ね3年超～7年以内）として区分した。

(1) 大学、専修学校等 高等教育機関との連携

- 高校生が、大学レベルの教育に触れたり、専修学校の専門教育に触れたりする機会を提供することによって、個々の生徒の能力や学習意欲を高め、職業選択への理解を深める。

① 高・大連携（大学・短大・高専）

- 島根大学、島根県立大学短期大学部松江キャンパス、松江工業高等専門学校については、現在、地域の発展と人材育成を推進するため、包括的な連携協定を締結している。
- 市立女子高においても、大学からの出張講座(年間16講座)や県立大学への訪問見学、講演会への講師派遣などを実施している。
- 平成26年12月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」の中でも、高大接続改革の必要性を鑑み、抜本的な改革を提言されており、今後は一層緊密な連携について検討が必要である。
- 市立女子高の高・大連携としては、高校と大学の協力のもとに行われる「出張授業や体験授業など(P5ア.)」に留まらず、「大学における学修を高校単位として認定する制度(同イ.)」の創設や、将来の職業選択を見据えた各種専門的分野における高等教育機関との連携及び当該高等教育機関における「入学推薦枠(同ウ.)」の確保など、市内はもとより、姉妹都市等との大学とも幅広く協議を行い、魅力化を図りたい。

ア. 高校生が大学教育に触れる機会の提供	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学教員が高校へ出向き定期的に行う講義または授業、講演 等 ・ 大学において行う、高校生を対象とした大学教授による講演 等 ・ 高校生を対象とした公開講座や体験授業の開催 ・ 高校生を対象とした大学の通常授業の履修 ・ オープンキャンパス 等 	
イ. 入学前の履修認定	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が大学の科目履修生等として大学の授業科目を受講し、その成果として取得した大学の単位は大学入学後に既修得単位として認定を受ける。 	
ウ. 入学推薦枠	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携する中で特定の専門知識・技能を身に付けた生徒について、連携大学に特別推薦枠の導入を要請する。 	

② 高・専連携（専修学校）

- 松江市では、地元定住率の高い専修学校の振興・充実を図り、地域の人材育成・人材確保に資することを目的として、松江市専修学校協議会に対する支援を行うなど、これまでも連携を図っている。
- 医療・看護・介護・福祉系などのニーズは高まっており、地域社会を担う人材育成が引き続き必要である。
- また、「魅力化アンケート」において、市内専修学校からも連携を望む回答が多く見られ、周辺地域の専修学校も含めた高・専連携について検討を行う必要がある。

ア. 高校生が専修学校に触れる機会の提供	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専修学校が高校へ出向き行う出張講座 等 ・ 専修学校において行う高校生を対象とした講演、公開講座 等 ・ 専修学校への学校訪問、学校見学会、オープンキャンパス ・ 専修学校や関連職場でのインターンシップや職場体験 ・ 教員同士の連絡会、教職員研修 等 	
イ. 入学推薦枠	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携する中で特定の専門知識・技能を身に付けた生徒について、連携学校に特別推薦枠の導入を要請する。 	

(2) 学科再編

- 現在、普通科 3 クラス、国際文化観光科 1 クラスの 4 クラス編成で、平成 28 年度の卒業後の進路は、進学者が 92%、就職者が 8%である。
- 「魅力化アンケート」によると、市内中学 3 年生や市立女子高 1 年生生徒が高校を選ぶ際に大事にする事柄の 1 位は、ともに「将来の進路にあっていること」であるが、中学生の段階では明確な進路を持ちにくいとの意見もあり、高校 3 年間の学習活動の中で将来の夢や進路を考えるための教育や専門科目を幅広く用意することが重要であると考えられる。
- 中でも、「国際文化観光都市・松江」や全国有数の高齢県である島根県として、地域を支えていく様々な専門的知識・技能を有する人材の育成が求められており、地域の高等教育機関とも連携しながら、人材育成を進めていくことが望まれる。
- 以上のことから、次の視点により、学科の再編を行うことが重要である。
 - ア. 生徒が将来の職業選択も視野に入れた幅広い選択科目の中から自ら選択し、主体的にカリキュラムを構築することのできる「総合学科」の導入について検討を行う。

その際、地域人材育成に関する系列を「国際文化観光」以外にも複数設定すると同時に、従来から需要の高い「普通系列」を設定し、選択肢を増やす。
 - イ. 平成 32 年度に実施される大学入試改革では、「思考力・判断力・表現力」がより問われる内容に変更され、英語科目では、TOEIC、英検などの民間試験をもって代用することも検討されている。主体的に考え、積極的に行動する人材やグローバル化に対応する人材は、大学入試はもとより、企業や地域社会においても広く求められている人材であり、これらに対応した学習の充実を図る。

ア. 総合学科の導入	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科」として、科目選択する際の目安となるよう関連の深い科目をまとめた「グループ(系列)」と多種多様な「選択科目」を設定する。 ※「総合学科」の名称については、市民にとって分かりやすいものとなるよう検討する。 ・卒業に必要な「必履修科目」と「選択科目」の中から、興味・関心、将来の夢などに応じて自由に科目を選択し、自分だけの時間割を作る。 	
<p>《系列の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「系列」は、地域に必要な専門的知識や技能を修得するため、国際観光・文化、保育・教育、看護・福祉・栄養などを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>(系列の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 普通系列 ○ 国際観光・文化系列 ○ 保育・教育系列 ○ 看護・福祉・栄養系列 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> } 地域人材育成 </div> </div>	
<p>《選択科目》</p> <p>(1) 必履修科目以外の「総合選択科目」(日本史、世界史、物理、化学、生物 等)</p> <p>(2) その他「自由選択科目」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性リーダー育成として、地域課題解決のための実践的要素。 ・グローバルな感性を持つ女性を育成するため、外国語教育や実用英語、英会話など。(TOEIC に対応した英語科目 等) ・職業選択を見据えた科目。(福祉、看護、栄養、介護、保育 等)。 ・思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を育てる学習。 ・アクティブラーニングなど体験的授業。 	
イ. グローバルな人材育成	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 32 年度大学入試改革を視野に入れた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに、TOEIC、TOEFL、英検などの民間試験にも対応した学習。 	

※学科再編のイメージは、P8 の資料参照

学科再編のイメージ

総合学科 系列	科目			進路先 又は 連携先(案)	将来の職種
	必修科目 A	選択科目 B C			
<p style="text-align: center;">普通系列</p> <p style="text-align: center;">国際観光・文化系列</p> <p style="text-align: center;">保育・教育系列</p> <p style="text-align: center;">看護・福祉・栄養系列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 ・数学 ・理科 ・保健体育 ・外国語 ・地理歴史 ・公民 ・芸術 ・家庭 ・情報 等 	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語理解 ・英語表現 ・時事英会話 ・コミュニケーション英語 ・中国語 ・韓国語 ・異文化理解 ・化学 ・生物 ・物理 ・日本史 ・世界史 ・現代史 ・現代文 ・数学活用 等 	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報メディア ・地域文化理解 ・郷土の自然 ・食文化の伝承 ・フードデザイン ・ものづくり ・地域課題 ・音楽表現 ・書道表現 ・ビジネス基礎 ・発達と保育 ・児童家庭福祉 ・社会福祉学基礎 ・看護学基礎 ・栄養学基礎 ・医療社会学基礎 ・介護実習体験 等 	<p>(普通系列)</p> <p>A + B (英語表現など)</p> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四年制大学 ・短期大学 等 	
		<p>(国際観光・文化)</p> <p>A + B + C (地域文化理解など)</p> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域文化等の学部を有する大学(市内) ・国際観光ビジネスや芸術系の学部を有する大学(市外) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業界 ・通訳案内士 等 		
		<p>(保育・教育)</p> <p>A + B + C (発達と保育など)</p> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教育等の学部を有する大学・短大(市内外) ・保育系専門学校(市内外) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士 ・幼稚園教諭 ・福祉施設 等 		
		<p>(看護・福祉・栄養)</p> <p>A + B + C (看護学基礎など)</p> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護・福祉・栄養等の学部を有する大学(市内外) ・看護・福祉・栄養系等の専門学校(市内外) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・管理栄養士 ・介護士 ・保健師 等 		

科目選択(1年～3年)のイメージ

1年次	必修A (国語、数学、英語、体育など)	選択B	選択C	総合的学習・LHR
2年次	必修A	選択B (科学、生物、日本史など) (コミュニケーション英語など)	選択C	
3年次	必修A	選択B	選択C (郷土文化理解、ものづくりなど) (保育、看護、栄養、介護など)	

(3) 特色ある学校運営

- 選ばれる学校となるため、学習内容に関する取組のほか、人事や施設など運営面の見直しが必要である。

ア. 経営委員会(仮称)の設置	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・市立女子高の魅力化提案に関する検討・検証や、今後の学校運営に関する検討・評価を行う。外部委員を中心として、10人以内。 	
イ. 人事制度の見直し(教員の独自採用)	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、島根県教委から派遣を受けている管理職等について、本市の事業施策を一層反映させるとともに、より中長期的な計画に基づく学校運営を行うため、市の独自採用を検討する。 ・高大連携などに関する対外的な調整や情報発信などを効果的に行うため、専属コーディネーターの配置を検討する。 ・また、外国語教育を充実させるため、ネイティブ講師の採用を検討する。 	
ウ. 定員の弾力化	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・現在4名を上限としている県外枠の撤廃を検討する。 	
エ. 施設の整備	《短期》
<ul style="list-style-type: none"> ・県外枠撤廃に伴う県外出身者の増加等に対応するため、居住環境の整備が必要。 ・上記の整備には、市内中心部や学校周辺に点在する空き家の活用を検討する。 ・コストや安全管理面から、比較的多くの生徒が共同生活できる規模の家屋とし、また、シェアハウスなどの運営形態や寮母などの配置も検討する。 	

(4) 情報発信

- 市立女子高として長年にわたり取り組み、成果を上げている「今の女子高が持つ魅力」を正当に評価し、更に高めていくことがまず重要である。
- 市立女子高は理念等が明確でないとの意見もあり、また、「魅力化アンケート」では、市内企業にとって市立女子高のイメージが希薄であることも分かった。
- 一方でオープンスクールなどの機会に市立女子高の魅力に触れ、良い印象を持った中学生や保護者も多く、今後は一層積極的な情報発信が必要である。

情報発信	《短期》
<p>現在の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30人学級制、習熟度別少人数指導、チューター制度 ・国際文化観光科、国際交流、海外研修 ・観光プランコンテスト、ユネスコスクール ・ボランティア精神(エイズ啓発等)、ホスピタリティ精神の育成等 	

(5) 将来的な検討課題

- 今回の魅力化検討プロジェクトでは、新たな学校形態や教育内容として、「国際バカロレア教育校」、「中高一貫教育校」についても多くの時間を割き、議論を行ってきた。しかしながら、いずれも導入への課題が多く、将来的な検討項目とした。

① 国際バカロレア教育校の研究

- グローバル社会に必要な知性やスキルを磨き、国際的に通用する大学入学資格を与えるため、国際バカロレア機構(本部スイス)が提供する教育プログラムで、世界 140 以上の国・地域において 4,610 校が開校している(平成 28 年 7 月現在)。
- 現在、国においては、国内のバカロレア認定校等を平成 30 年度までに 200 校まで拡大させることを目標として日本語カリキュラムの開発が進められており、平成 25 年度以降、一部科目が日本語化されている。

国際バカロレア教育校の研究	《中長期》
・バカロレア理念やカリキュラムを修得し、認定を得た学校は、バカロレアプログラムに従い、選択 6 科目(最低 2 科目は英語で実施)及び 3 つの必修要件(論文、知の理論、創造性、奉仕活動)を実施するもの。	

(課題)

- 国がカリキュラムの日本語化などで支援を行っているが、登録料、施設整備などの導入経費及び維持管理運営経費については、自主財源で賄う必要があるとともに、認定手続き等に係る人的・経済的負担は少なくない。
- また、平成 28 年 7 月現在、国内の認定校のうち学校教育法第 1 条に規定する学校は 15 校であるが、その全てが男女共学校であり、多くが大都市圏にある中高一貫校である。現在、導入を目指している公立高校も、グローバル化に対応する県内の拠点校として戦略的に位置づけられているところが多い。主として海外大学への進学を目指すバカロレア校と、地域で活躍するリーダー育成を目指す市立女子高の整合など、課題は多い。
- ただし、生徒の主体性を育て、グローバル化に対応する「国際バカロレア」が掲げる教育理念は、女子高の魅力化においても参考となるものである。

② 中高一貫教育校（併設型）の研究

- 中高一貫教育は、6年間一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すもので、平成11年より選択的に導入が可能になった。
- 一つの学校として新設する「中等教育学校」、同一の設置者による「併設型」、異なる設置者による「連携型」があるが、市立女子高が実施する場合、同じ松江市が設置する中学校との「併設型」が適当である。

中高一貫教育校（併設型）の研究	《中長期》
<ul style="list-style-type: none">・市立中学校と市立女子高との併設型。・中学校に相当する前期課程と、高校に相当する後期課程で構成される。	

（課題）

- 併設型の中高一貫校は、中等教育学校よりも経費が抑えられるものの、中学部分の施設改修費用や中学校教諭の給与、必要備品等の運営経費が発生する。
- 「魅力化アンケート」における中学3年生及び市立女子高生徒の回答では、中高一貫教育校のメリット、デメリットとされている「6年間環境が変わらないこと」、「高校入試が行われないこと」に対する賛否が多く見られた。特に、同性のみで6年間学校生活を送ることに対する不安が多く、共学であれば賛成とする意見も散見された。また、専修学校からは、中高一貫教育を進学重視や多様性に乏しいと捉えて否定的な意見が多く見られ、回答者全体としては賛否がほぼ拮抗していた。
- 全国的にみて、公立で女子のみの中高一貫校は見当たらず、中高一貫教育校への移行については、経費と市民ニーズなどを含め総合的に検討する必要がある。

4. 魅力化実現に向けての方策とロードマップ

		期間		
		項目（魅力化案）		
グローバルな視点を兼ね備えた総合人間力の形成	具体的な魅力化の方策	3-(1) 大学、専修学校等 高等教育機関との連携 ① 高・大連携 ア. 高校生が高等教育に触れる機会の提供 ② 高・専連携 (専修学校)	1 大学教員等が高校へ出向き定期的に行う講義または授業 2 大学教員等が高校へ出向き行う講演 3 大学等において高校生を対象に行う教授による講演 4 高校生を対象とした公開講座の開催 5 高校生を対象とした大学等の通常授業の履修 6 高校生を対象とした体験授業の開催 7 オープンキャンパス 8 専門学校や関連職場でのインターンシップや職場体験 9 教員同士の連絡会、教職員研修 等	
			イ. 入学前の履修認定	・高校生が大学の科目履修生等として大学の授業を受講、取得した単位は大学入学後に既修得単位として認定。
			ウ. 入学推薦枠	・連携する中で特定の専門スキルを身に付けた生徒については、提携大学に特別推薦枠の導入を要請する。
		3-(2) . 学科再編 ア. 総合学科の導入 (複数の系列から選択)	・地域に必要な専門的知識や技能を修得するため、国際観光・文化、保育・教育、観光・福祉・栄養などの「系列」を設定する。 ・2年目以降は、1年次の学習体験を踏まえ、将来の進路を視野に入れた「系列」の幅広い選択科目から自分で科目を選択する。 ・選択科目には、女性リーダー育成として、地域課題解決のための実践的要素を取り入れる。	
			イ. グローバル人材育成	・「思考力、判断力、表現力」を養うとともに、グローバルな感性を持つ女性を育成するため、TOEIC、TOEFL等の民間資格試験に対応した実践的な外国語教育を実施する。
		3-(3) . 特色ある学校運営 ア. 経営委員会(仮称)の設置 イ. 人事制度 ウ. 定員の弾力化 エ. 施設の整備	ア. 経営委員会(仮称)の設置	・魅力化案の検討、検証。学校運営の検討、評価。等
			イ. 人事制度	・管理職の独自採用やネイティブ講師の採用。等
			ウ. 定員の弾力化	・現在4名を上限としている県外枠の撤廃を検討する。
			エ. 施設の整備	・生徒寮の整備と空き家活用の検討。等
		将来的な検討事項	3-(4) . 情報発信	・様々な媒体を活用した積極的な広報(現在や今後の魅力) ・中学校への学校説明。・専修学校、事業所へのPR。
3-(5) . ①国際バカロレア 国際バカロレア校の研究 ②中高一貫校 中高一貫校(併設型)の研究	・国際バカロレアプログラムの導入について研究。 ・併設型中高一貫教育の導入について研究。			
高校教育(市立女子高)を取り巻く状況		大学入試改革 学習指導要領改訂 県立高校再編基本計画 松江市各種計画		

短期		中・長期	
2017(H29) ~ 2019(H31)		2020(H32) ~ 2023(H35)	
<p>協議 → 実施 → 引き続き連携拡充</p> <p>教育機関と協議し、連携プログラムを具体化。可能なものから実施。必要に応じ協定締結。</p>			
協議（市内外の高等教育機関）			
協議（市内外の高等教育機関）			
<p>科目等の検討 → 決定 → 実施</p>			
<p>TOEIC等に対応する英語教育やアクティブラーニング準備</p>		<p>新カリキュラム</p>	<p>大学入試改革 <small>(知識・技能に加え、「思考力・判断力・表現力」を重視) <small>(中教審答申：英語は「読む・聞く・書く・話す」4技能を総合評価) (文科省ではTOEFL、英検など外部資格検定試験の代用も検討。)</small></small></p>
魅力化案の検討・検証			
広報・PRの手法見直し			
<p>研究 バカロレア教育校の現状調査・研究</p>			
<p>研究 中高一貫教育校の現状調査・研究</p>			
<p>現行：個別学力検査(2次試験)・センター試験</p>		<p>大学入学希望学力評価テスト(仮)・等 <small>小学校実施 中学校実施 高校実施</small></p>	
<p>県立高校在り方検討委員会</p>		<p>次期 『県立高校再編基本計画』(島根県)</p>	
<p>『新松江市総合計画(H29～33)』 『第2次松江市男女共同参画計画』(H29～33)』</p>			

※ 副教育長を除く50音順

	氏名	所属
1	岩本 悠	島根県 教育魅力化特命官
2	片上 宗二	安田女子大学 心理学部長
3	熊丸 真太郎	島根大学大学院 教育学研究科 准教授
4	小玉 容子	島根県立大学 短期大学部 松江キャンパス 教授
5	小林 祥泰	島根大学 名誉教授
6	園山 信夫	島根県中学校長会 会長
7	高島 恵美	山陰中央新報社 地域メディア局 出版部部長
8	古瀬 誠	松江商工会議所 会頭
9	横山 紫織	島根県観光連盟 しまね観光大使（卒業生代表）
10	広江みづほ	松江市教育委員会 副教育長

松江市立女子高等学校魅力化検討プロジェクト設置要綱

(目的)

第1条 松江市立女子高等学校（以下「女子高」という。）のあり方を検討するとともに、女子高のさらなる魅力化について専門的見地から意見を伺うため、松江市立女子高等学校のあり方検討プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を松江市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に設置する。

(組織)

第2条 プロジェクトは、委員10名以内をもって組織する。

2 委員は、教育長が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、平成29年3月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第3条 プロジェクトに、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、プロジェクトを代表し、会務を総括する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代行する。

(会議)

第4条 会議は、委員長が招集する。ただし、委員の委嘱後最初の会議は、教育長が招集する。

2 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聞くことができる。

(事務局)

第5条 プロジェクトの事務局は、教育委員会教育総務課に置く。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、プロジェクトの運営に関し必要な事項は、委員長がプロジェクトに諮って定める。

附 則

この要綱は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年12月1日から施行する。

資料 C

《 検討経過 》

回	開催日時	検討内容等	出席委員
1	平成 28 年 7 月 19 日(火) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委嘱、委員長・副委員長の選出 ・ (事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体スケジュール ・ 松江市立女子高をとりまく状況、沿革 ・ (基調講義) 安田女子大学 片上宗二教授 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「安田女子大学の教育理念等について」 ・ 意見交換 	9 人
2	平成 28 年 8 月 3 日(水) 13:00～15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ (事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回会議において出されたご意見・ご質問に対する回答 (松江市の将来ビジョン等) ・ 女子高魅力化アンケートの実施及び調査項目等 ・ 意見交換 	10 人
3	平成 28 年 8 月 26 日(金) 13:00～15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ (事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回会議において出された魅力化案について情報収集した結果を報告 (高大連携等) ・ 女子高魅力化アンケートの様式案 ・ 意見交換 	6 人
	平成 28 年 9 月～10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女子高魅力化アンケートの実施 <ol style="list-style-type: none"> ① 中学 3 年生女子、保護者用 (対象 208 人) ② 松江市立女子高等学校生徒 (対象 338 人) ③ 市内専修学校用 (対象 8 校) ④ 市内事業者用 (対象 100 社) 	
4	平成 28 年 10 月 31 日(月) 13:30～15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ (事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子高魅力化アンケートの結果報告 ・ 第 3 回会議において出された魅力化案に関する全国及び本市の状況等を説明 ・ 意見交換 	8 人
5	平成 29 年 2 月 9 日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ (事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの経過と今後のスケジュール ・ 女子高魅力化の基本的考え方 等 ・ 意見交換 	8 人
6	平成 29 年 3 月 9 日(木) 13:30～15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ (事務局説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ 提言書 (素案) の説明 等 ・ 意見交換 	5 人
	平成 29 年 3 月 15 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提言書の提出 (予定) 	

資料 D

《 各種データ 》

松江市立女子高校の 入学者数の推移 (第1回会議資料)

(単位:人)

		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
普通科		119	120	111	120	102	95	105	90	90	85	90	90	90	83	90
国際文化科		40	34	30	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際文化 観光科	国際文化コース	-	-	-	-	21	27	7	24	30	22	28	30	30	25	30
	観光コース	-	-	-	-	19	3									
合 計		159	154	141	142	142	125	112	114	120	107	118	120	120	108	120

松江市立女子高校の 生徒総数の推移 (第1回会議資料)

(単位:人)

		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
普通科		353	354	343	345	323	307	290	284	275	259	258	255	261	259	257
国際文化科		112	106	102	84	50	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際文化 観光科	国際文化コース	-	-	-	-	21	48	76	60	61	74	79	80	87	83	79
	観光コース	-	-	-	-	19	22									
合 計		465	460	445	429	413	398	366	344	336	333	337	335	348	342	336

松江市立女子高校の 卒業生の動向 (第1回会議資料)

(単位:人)

年度	進学者				就職者			その他	合計
	大学	短大	専門・各種	計	県内	県外	計		
H 10	37	54	51	142	3	1	4	8	154
H 11	52	41	53	146	5	0	5	7	151
H 12	53	33	41	127	11	0	11	1	138
H 13	26	49	52	127	13	3	16	8	143
H 14	38	38	54	130	13	0	13	5	143
H 15	32	38	68	138	4	1	5	7	143
H 16	29	37	63	129	4	0	4	14	133
H 17	27	40	45	112	11	2	13	9	125
H 18	28	29	51	108	9	2	11	13	119
H 19	30 (2)	25 (1)	47	102	16	1	17	9	119
H 20	30 (5)	26 (12)	45	101	10	2	12	7	113
H 21	35 (10)	21 (5)	31	87	10	2	12	2	99
H 22	26 (6)	19 (8)	43	88	17	0	17	0	105
H 23	31 (9)	17 (9)	60	108	10	0	10	0	118
H 24	21 (7)	20 (8)	41	82	13	1	14	0	96
H 25	25 (7)	31 (13)	43	99	8	1	9	2	108
H 26	26 (8)	20 (10)	57	103	12	1	13	0	116
H 27	35 (8)	26 (8)	42	103	9	0	9	1	112

()は県内

松江圏域の中学生卒業見込み者数の推移（第1回会議資料）

（単位：人）

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
生徒数	2,117	2,076	2,070	1,934	2,040	1,934	2,079	2,073	2,034	2,025	1,990	1,969	1,937	1,817	1,828	1,748	1,867	1,859	1,817	1,867	1,820	1,791	1,792	1,784

松江市の人口推計（第1回会議資料）

		1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
		S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
総数	(人)	194,173	201,026	203,298	206,718	211,564	210,796	208,613	204,587	199,120	192,401	184,957	176,844	168,173
年少人口	(人)	43,221	42,264	37,898	34,636	32,424	29,704	28,051	26,368	24,257	21,838	19,750	18,402	17,389
年少人口割合	(%)	22.3	21	18.7	16.8	15.3	14.1	13.7	12.9	12.2	11.4	10.7	10.4	10.3
生産年齢人口	(人)	130,246	134,942	136,107	136,879	137,364	133,663	126,906	120,053	113,497	108,377	102,837	96,121	87,468
生産年齢人口割合	(%)	67.1	67.1	67.1	66.2	65	63.6	61.8	58.7	57	56.3	55.6	54.4	52
老年人口	(人)	20,652	23,814	28,719	35,161	41,586	46,650	50,512	58,166	61,366	62,186	62,370	62,321	63,316
老年人口割合	(%)	10.6	11.8	14.2	17	19.7	22.2	24.6	28.4	30.8	32.3	33.7	35.2	37.6
後期老年人口	(人)	7,769	9,588	11,981	14,283	17,881	22,909	26,875	30,100	32,639	37,200	38,947	38,801	38,179
後期老年人口割合	(%)	4	4.8	5.9	6.9	8.5	10.9	13.1	14.7	16.4	19.3	21.1	21.9	22.7
年少人口指数		33.2	31.3	27.8	25.3	23.6	22.2	22.1	22	21.4	20.2	19.2	19.1	19.9
老年人口指数		15.9	17.6	21.1	25.7	30.3	34.9	39.8	48.5	54.1	57.4	60.6	64.8	72.4
従属人口指数		49	49	48.9	51	53.9	57.1	61.9	70.4	75.4	77.5	79.9	84	92.3
老年化指数		47.8	56.3	75.8	101.5	128.3	157	180.1	220.6	253	284.8	315.8	338.7	364.1

国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』を使用しています。
 年齢階級別等の人口の数字は、国勢調査のデータを市町村合併を考慮して独自に集計したものです。境界変更については考慮していません。
 ※年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)、後期老年人口(75歳以上)
 年少人口指数=年少人口÷生産年齢人口×100、老年人口指数=老年人口÷生産年齢人口×100
 従属人口指数=(年少人口+老年人口)÷生産年齢人口×100、老年化指数=老年人口÷年少人口×100 高齢化率=老年人口割合

全国の男女別学、男女共学校の推移（第4回会議資料）

（単位：校）

	公立			私立		
	女子のみ の高校	男子のみ の高校	男女ともに いる高校	女子のみ の高校	男子のみ の高校	男女ともに いる高校
昭和60年度	193	133	3,821	520	274	472
平成 2年度	177	84	3,916	502	255	536
平成 7年度	146	51	3,967	480	216	607
平成12年度	116	40	3,989	410	177	725
平成17年度	73	27	3,982	334	136	840
平成22年度	45	17	3,718	297	117	901
平成23年度	44	16	3,664	289	113	912
平成24年度	42	17	3,629	288	110	913
平成25年度	39	15	3,592	284	109	918
平成26年度	38	19	3,570	281	105	926
平成27年度	36	15	3,553	277	101	935

※学校基本調査より

全国の中高一貫校の推移（第4回会議資料）

（単位：校）

		国立	公立	私立	計
平成17年度	中等教育学校	2	8	9	19
	併設型	1	38	41	80
	連携型	1	169	1	171
	計	4	215	51	270
平成19年度	中等教育学校	3	19	12	34
	併設型	1	56	103	160
	連携型	1	170	1	172
	計	5	245	116	366
平成22年度	中等教育学校	4	28	16	48
	併設型	1	69	203	273
	連携型	2	174	1	177
	計	7	271	220	498
平成25年度	中等教育学校	4	29	17	50
	併設型	1	74	243	318
	連携型	1	167	1	169
	計	6	270	261	537
平成27年度	中等教育学校	4	30	17	51
	併設型	1	83	374	458
	連携型	1	168	3	172
	計	6	281	394	681

※学校基本調査より

全国の国際バカロレア認定校（1条校）（第4回会議資料）

（H28.7月現在）

学校名称	PYP	MYP	DP	都道府県
仙台育英学園高等学校			○	宮城県
茗溪学園高等学校			○	茨城県
ぐんま国際アカデミー			○	群馬県
玉川学園中学部・高等部		○	○	東京都
東京学芸大学附属国際中等教育学校		○	○	
東京都立国際高等学校			○	
インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢			○	長野県
サニーサイドインターナショナルスクール	○			岐阜県
加藤学園暁秀高等学校・中学校		○	○	静岡県
名古屋国際高等学校			○	愛知県
立命館宇治高等学校			○	京都府
英数学館高等学校			○	広島県
AICJ高等学校			○	
リンデンホールスクール中高等部			○	福岡県
沖縄尚学高等学校			○	沖縄県
計	1	3	14	

資料 E

《 魅力化アンケート(抜粋) 》

・「市立女子高の魅力化に関するアンケート」は、市立女子高生徒、市立中学校3年生生徒及び保護者、市内専修学校、市内事業者を対象として、平成28年9月～10月に実施しました。
市立女子高は全生徒を対象とし、市立中学校3年生は各学級から女子4名を無作為抽出しました。

※ 詳細は、松江市ホームページ (<http://www.city.matsue.shimane.jp/>) から閲覧可能。

松江市トップページ ⇒ 暮らしのガイド ⇒ 審議会情報 ⇒ 平成28年10月 ⇒ 第4回女子高魅力化

回収状況

	発送数	回収数	無効回答数	有効回答数	有効回答率
女子高等学校生徒	338	330	2	328	97.0%
1年生	120	120	0	120	100.0%
2年生	117	110	2	108	92.3%
3年生	101	100	0	100	99.0%
市立中学校3年生・保護者	208	173	1	172	82.7%
市内専修学校	8	7	0	7	87.5%
市内事業者	100	18	0	18	18.0%
合 計	654	528	3	525	80.3%

(市内事業者を除く有効回答率 91.5%)

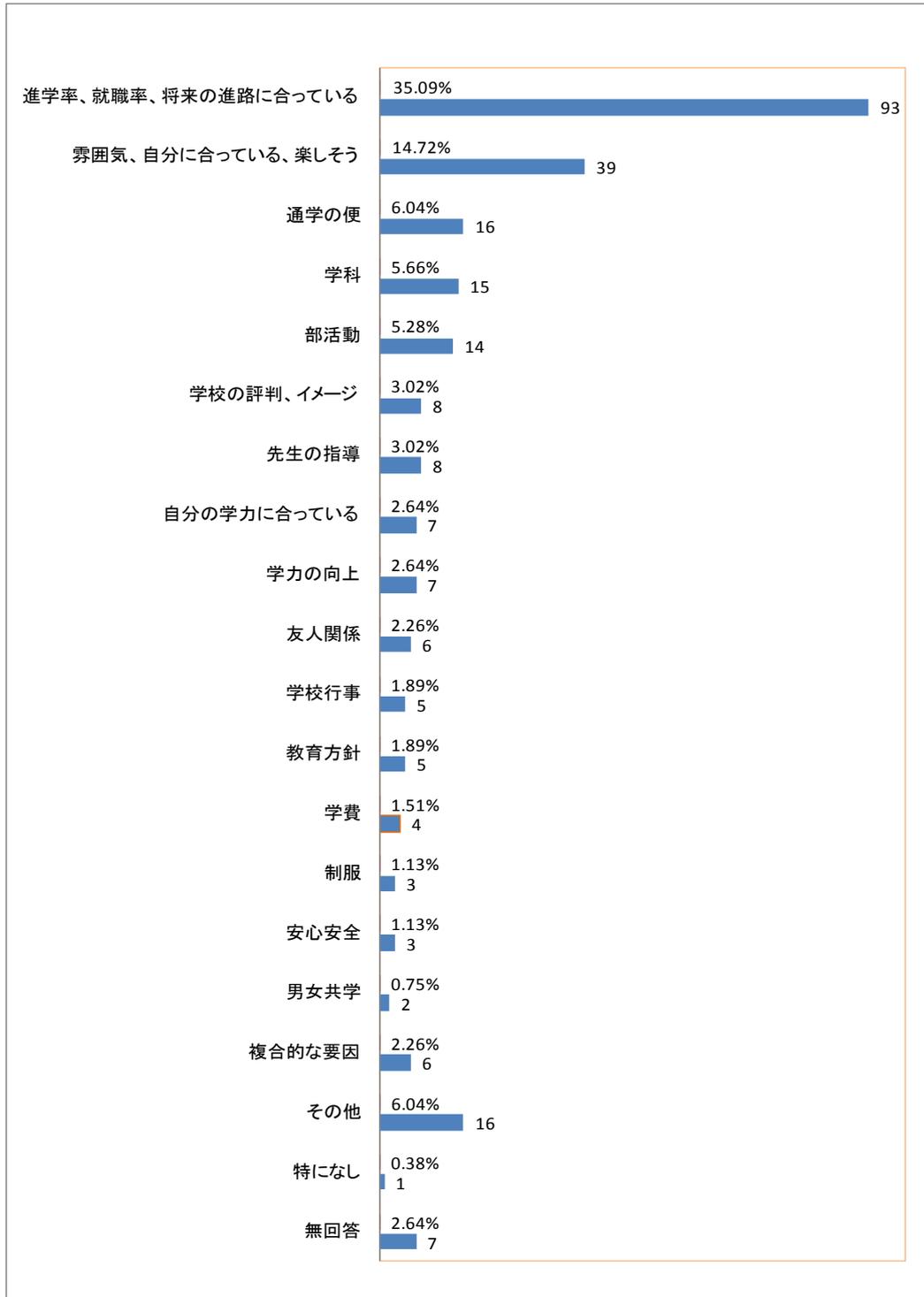
質問内容(要旨)一覧

調査対象	質問内容(要旨)	
中学3年生・保護者	質問(1)	女子高にどのようなイメージを持っているか
	質問(2)	女子高に期待することは何か
	質問(3)	高校を選ぶとき、大事にしたいこと
	質問(4)	女子高にどんな学科(学習)があると良いか
	質問(5)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(6)	その他、意見、質問、要望
女子高生徒 1年生	質問(1)	女子高を進学先に選んだ理由
	質問(2)	女子高の魅力、自慢は何か
	質問(3)	卒業まででどんな自分になっていたいか
	質問(4)	女子高をこんな学校にしたいアイデア
	質問(5)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(6)	その他、意見、質問、要望
女子高生徒 2年生	質問(1)	女子高を進学先に選んだ理由
	質問(2)	女子高の魅力、自慢は何か
	質問(3)	卒業まででどんな自分になっていたいか
	質問(4)	女子高をこんな学校にしたいアイデア
	質問(5)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(6)	その他、意見、質問、要望
女子高生徒 3年生	質問(1)	女子高を進学先に選んだ理由
	質問(2)	女子高の魅力、自慢は何か
	質問(3)	卒業まででどんな自分になっていたいか
	質問(4)	女子高をこんな学校にしたいアイデア
	質問(5)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(6)	その他、意見、質問、要望
女子高生徒 全体	質問(1)	女子高を進学先に選んだ理由
	質問(2)	女子高の魅力、自慢は何か
	質問(4)	女子高をこんな学校にしたいアイデア
	質問(5)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(6)	その他、意見、質問、要望
専修学校	質問(1)	女子高にどのようなイメージを持っているか
	質問(2)	入学してほしい生徒、育てほしい生徒
	質問(3)	女子高にどんな学科(学習)があると良いか
	質問(4)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(5)	女子高とどのような連携を望まれるか
	質問(6)	その他、意見、質問、要望
事業者	質問(1)	女子高にどのようなイメージを持っているか
	質問(2)	企業として求められる人材は
	質問(3)	女性リーダーとして求められる資質は
	質問(4)	女子高にどんな学科(学習)があると良いか
	質問(5)	女子高が中高一貫校になるとしたら
	質問(6)	その他、意見、質問、要望

「魅力化アンケート集計結果(抜粋)：中学3年生女子生徒及び保護者」

質問(3) 高校を選ぶとき、大事にしたい事柄は何ですか？

(人)

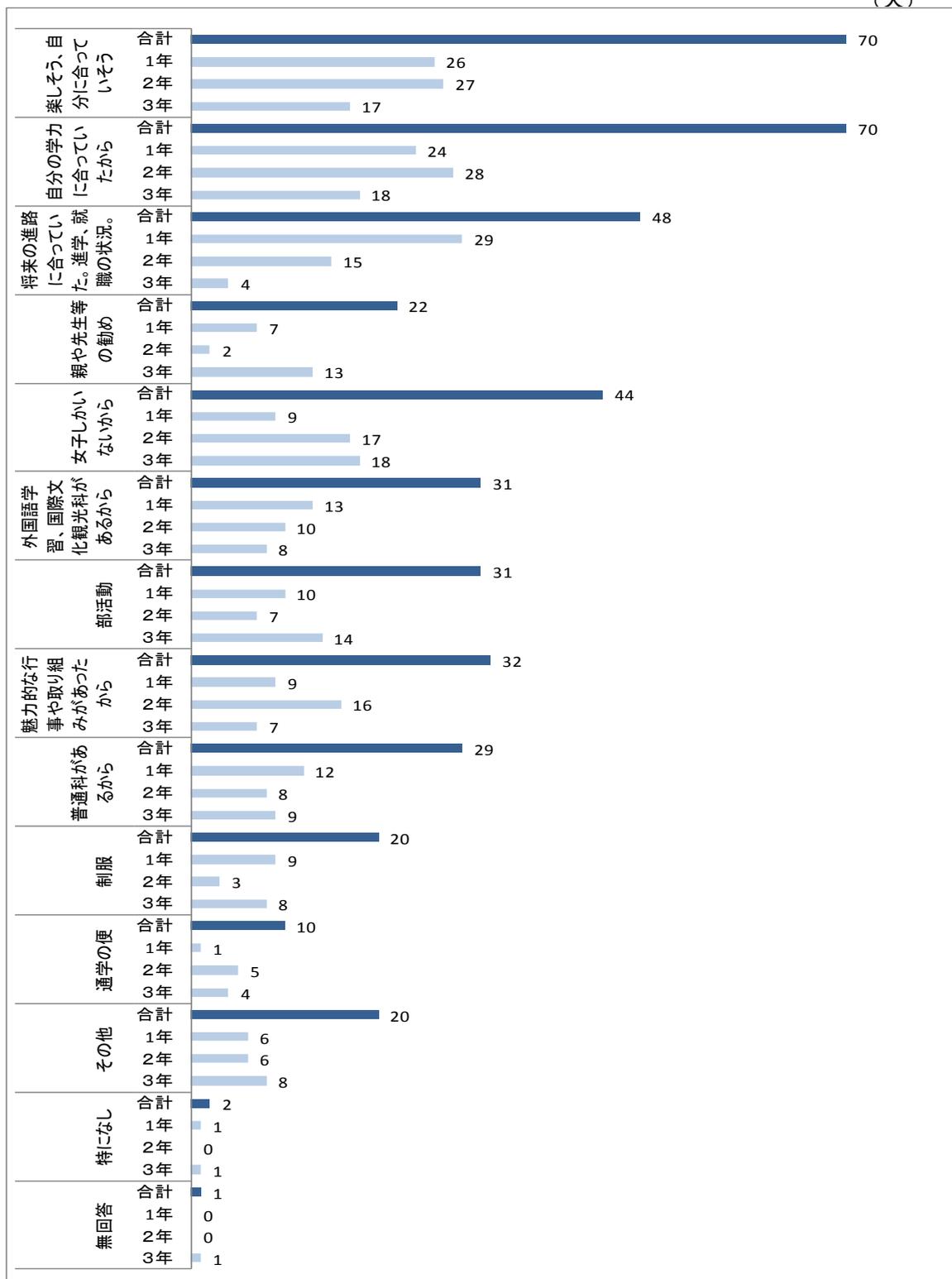


(回答数 265) ※複数回答あり

「魅力化アンケート集計結果（抜粋）：女子高生徒（1年生～3年生）」

質問(1) 松江市立女子高を進学先として選んだ理由は何ですか？

(人)



「魅力化アンケート集計結果（抜粋）」

○松江市立女子高にどのような学科(学習)があると良いと思いますか。

最も良いと思われるものから順に3つ選んでください。(「第1」から「第3」まで)

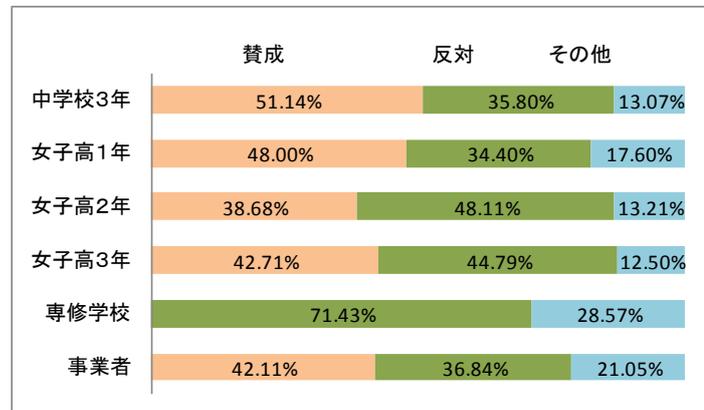
()内は、選んだ生徒、専修学校、事業者の数

	「第1」に選んだ方が多かった順				「第1」～「第3」に選んだ合計が多かった順			
	1	2	3	4	1	2	3	4
中学3年生	進学(37)	看護(33)	外国語(25)	福祉(20)	看護(90)	進学(75)	外国語(69)	福祉(63)
専修学校	外国語(2) 医療(2)	-	福祉(1) 観光(1) 芸術(1)	-	外国語(5)	福祉(4) 情報(4)	-	観光(3)
事業者	福祉(4)	進学(3)	医療(2) 観光(2) 情報(2)	-	福祉(8) 外国語(8) 観光(8)	-	-	進学(7)

○松江市立女子高が、中高一貫教育校になった場合、どう思われますか。

(人)

	賛成	反対	その他	計
中学校3年	90	63	23	176
女子高1年	60	43	22	125
女子高2年	41	51	14	106
女子高3年	41	43	12	96
専修学校	0	5	2	7
事業者	8	7	4	19
計	240	212	77	529



資料 F

《 会議資料一覧 》

※ 松江市ホームページ (<http://www.city.matsue.shimane.jp/>) から閲覧可能。
松江市トップページ ⇒ 暮らしのガイド ⇒ 審議会情報

第1回 資料 平成 28 年 7 月 19 日

資料 1-1	松江市立女子高校の 入学者数の推移 (H13~H27)
	松江市立女子高校の 生徒数の推移 (H13~H27)
	松江市立女子高校の 卒業生の動向の推移 (H10~H27)
資料 1-2	松江市立女子高校の 卒業生の進路状況 (H27)
資料 1-3	松江市立女子高校の 定員・志望者数・合格者数の推移 (H17~H27)
資料 1-4	松江圏域の公立高校の学級数の推移 (H12~H27)
	松江圏内における入学定員の推移 (H13~H27)
	松江圏域における中学校卒業見込み者数の推移 (H17~H40)
	松江市の人口推計 (S55~H52)
資料 1-5	学校運営費の推移 (H23~H27)
資料 1-6	全国の市町村立女子高校の動向
資料 1-7	(冊子)平成 28 年度松江市立女子高等学校 学校要覧
資料 1-8	(冊子)安田女子大学・安田女子短期大学 各種資料等

第2回 資料 平成 28 年 8 月 3 日

資料 2-1	国際文化科、国際文化観光科の設置目的について
資料 2-2	松江市立女子高等学校 生徒募集要項
資料 2-3	松江市まち・ひと・しごと創生《第1次総合戦略》全体像
資料 2-4	第4次男女共同参画基本計画 (H27~37) 抜粋 【内閣府】
資料 2-5	第2次松江市男女共同参画計画 (H29~H33) 抜粋
資料 2-6	松江市立女子高教員に対するアンケート (H28.3月実施)

第3回 資料 平成 28 年 8 月 26 日 (金)

資料 3-1	高大連携とは
資料 3-2	中高一貫教育とは
資料 3-3	国際バカロレアとは
資料 3-4	くくり募集とは
資料 3-5	アンケート様式案

- ・ 市内中学校生徒 (3 年生女子)、保護者用
- ・ 市内専修学校用
- ・ 松江市立女子高等学校生徒 (1~3 年生) 用
- ・ 市内事業者用

第4回 資料

平成 28 年 10 月 31 日

○魅力化アンケート結果の報告

資料

・アンケート集計結果報告書

資料 4-1

国際バカロレア (IB) について

- ・ IB プログラムの種類、カリキュラム、国内の入学者選抜等
- ・ 日本における IB 認定校一覧
- ・ IB 認定校になるために (手続きと経費)
- ・ IB の日本語化について
- ・ IB 認定校の先進事例

資料 4-2

松江市における「高大連携教育」について

- ・ 「高大連携」について
- ・ 全国の「高大連携」の状況
- ・ 専修学校との連携
- ・ 松江市と高等教育機関の連携教育

資料 4-3

松江市における「中高一貫教育」について

- ・ 本市における中高一貫教育のコンセプト
- ・ 具体的な編成について
- ・ 設置に向けたロードマップ
- ・ 中高一貫教育実施に関する課題
- ・ 全国の「公立中高一貫校」の状況

資料 4-4

全国の「女子高」の状況

- ・ 全国の男女別学校、共学校の推移
- ・ 全国の女子高が減少している理由
- ・ 全国の公立女子高一覧表
- ・ 北関東に女子高が多く残っている理由
- ・ 男女共学・別学の主なメリット・デメリット

資料 4-5

・ 松江市における女性リーダー育成について

資料 4-6

・ 松江市立女子高における大学・短大等との連携

資料 4-7

・ 国際バカロレア校における出題例

第5回 資料

平成 29 年 2 月 9 日

資料 5-1

・ 第 1 回～第 4 回意見まとめ

資料 5-2

・ 魅力化の基本的考え方

第6回 資料

平成 29 年 3 月 9 日

資料 6-1

・ 提言書 (案)

資料 6-2

・ 提言書 (案) に対する意見